



境町の猿山・蛇池地区開発

大洋とフクダに

協力企業 地権者協議会が選定

境町の猿山・蛇池地区開発事業地権者協議会(関根会長)は5日、開発計画の事業推進を図る上で(株)大洋(水戸市)と(株)フクダ・アンド・パートナーズ(東京都中央区)を協力企業に決定した。今後は地権者との合意形成に向けて協議などを進めるほか、具体的な開発範囲などを検討して5、2021年中の流通業務施設の立地を目指す。

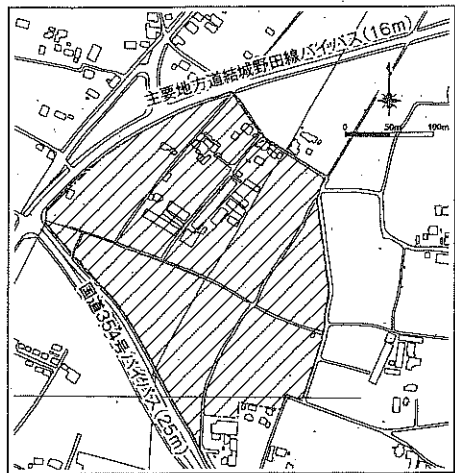
を予定している。
14年9月に地権者説明会や開発意向調査を実施し、15年7月には地権者

代表による「猿山・蛇池地区開発事業地権者協議会」が発足した。
18年度からは事業化に向け、測量などの調査を進めている。協力企業との決定により、地権者との具体的な話し合いにも着手していく。
大洋が開発を、フクダ・アンド・パートナーズが開発と建物計画をそれぞれ担当する予定。
なお境古河IC周辺地区(A約24・6ha)の開発では業務代行方式の土地区画整理を採用。境古河IC周辺地区土地区画整理組合が発足し、この5月には現地で起工式を開催した。業務代行者には大和ハウス工業(大阪府大阪市)が参加している。
境古河IC周辺地区での着工を踏まえ、今後は猿山・蛇池地区の開発も推進していく考えだ。

流通業務施設の立地を

境町は15年に境古河IC側の「境古河IC周辺地区」が開通し、東京都心などへのアクセス性が向上したことを生かすため、IC周辺に新たな産業拠点の開発を計画。開発用地には、IC西地区の各一部で、国道3

開発面積は約10・6haを想定。現時点での地権者数は45人を見込んでいる。
用途地域は市街化調整区域。産業系の土地利用



猿山・蛇池地区位置図